

令和3年度中部地域ブロックにおける災害廃棄物処理体制強化モデル事業 【長野県モデル自治体災害廃棄物処理体制強化事業】

本モデル事業の特徴

- ・長野県内の自治体を対象とした**グループワーク**を開催し、**令和元年東日本台風における教訓に関する意見交換等を実施。**
- ・グループワークを通して見出した令和元年東日本台風の特徴などを踏まえた知見等について「富山県・石川県災害廃棄物処理図上演習」業務で作成するグループワークシナリオに反映。
- ・全5回のワーキング会議を開催し、**ワークシートの内容についての講義及びそれに対応した演習を実施。**ワーキング会議後には**宿題としてワークシートの作成を進める**ことで、各モデル自治体の災害廃棄物処理計画（案）を作成。（演習については、より理解を深められるよう、各自治体の計画に掲載する数量を使った演習を実施。）

会議等	講義内容	意見交換内容	宿題
グループワーク R3.7.19・20 [オンライン]	・業務概要説明	・災害廃棄物処理事業の流れ ・災害廃棄物処理に係る意思決定の疑似体験	
第1回WG R3.8.3 [オンライン]	・本業務の実施内容の説明 ・長野県版ワークシート案の説明（事例の紹介を含む） 【総則全般、組織体制、情報収集】	・初動対応 （ワークショップ形式）	・対象とする災害 ・地域特性と災害廃棄物処理 ・災害対策本部 ・国、近隣他都道府県等との連絡
第2回WG R3.9.29 [オンライン]	・補足説明 ・ワークシートの説明【協力・支援体制、住民への広報、一般廃棄物処理施設等】 ・演習【避難所ごみ・生活ごみ、し尿・仮設トイレ】	・宿題の発表 ・宿題の内容に関する意見交換	・協力支援について ・一般廃棄物処理施設の現状 ・基礎的数値の算出① （避難所ごみ、生活ごみ、し尿、仮設トイレ）
第3回WG R3.10.28 [オンライン]	・補足説明 ・ワークシートの説明【発生量・処理可能量、処理フロー、仮置場】 ・演習【災害廃棄物発生量、処理可能量、処理フロー、仮置場必要面積】	・宿題の発表 ・宿題の内容に関する意見交換	・基礎的数値の算出② （発生量、処理可能量、処理フロー、仮置場必要面積） ・仮置場候補地
第4回WG R3.12.3 [対面]	・講演会【令和元年東日本台風に係る災害等廃棄物処理事業について～長野市の場合～】 ・補足説明	・処理計画案に関する意見交換	・全体見直し
第5回WG R4.1.26 [オンライン]	・補足説明 ・ワークシートの説明【災害廃棄物処理対策、災害廃棄物処理実行計画の作成、処理事業費等、災害廃棄物処理計画の見直し】	・処理計画案に関する意見交換	・処理計画案全体

令和3年度中部地域ブロックにおける災害廃棄物処理体制強化モデル事業 【長野県モデル自治体災害廃棄物処理体制強化事業】

1.モデル自治体

- グループワーク参加：8市8町10村（34名）
- ワーキング会議対象：1市1町6村
（岡谷市、川上村、長和町、南箕輪村、
中川村、宮田村、小谷村、小川村）

2.モデル事業の取組方針

- グループワークの実施により、令和元年東日本台風での対応事例を疑似体験し、**今後の災害廃棄物への対応力向上**を図る。
- 県内市町村の処理計画策定の促進を図る。過年度業務で整備したワークシートを基本とし、昨年度整理した「**令和元年東日本台風の経験に係る事例と対応策**」を事例として項目を追加。
- 平時の備えとして重要となる、**仮置場の選定補助や、仮置場のレイアウト検討支援**を可能な範囲で実施。

3.モデル事業の実施内容

①対応力向上を目的としたグループワーク

- **Web研修アプリ**を用い、災害廃棄物処理対応の流れについて学習。
- 討論型図上演習によって、**災害発生時の意思決定について疑似体験**することで、対応力を強化。

②ワーキング会議の開催と演習

- **講義による知識の習得及び演習、宿題形式での復習**により、災害廃棄物処理計画を策定するための一連の作業を支援。演習では、実際の各自治体で使用する数字を用いて実施することで、効率的に計画作成を進めた。
- 事前アンケートを実施し、ボトルネックとなる点を抽出したことや、各ワーキング会議でのモデル自治体間で意見交換を行うことで、**共通の問題点を解決**。

③オンライン開催

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、**ほぼすべての会議についてオンラインでの開催**とした。
- 数回にわたりオンラインでの意見交換を実施したことで、オンライン対応力が向上。移動時間が削減されたことで、参加の意欲も向上。

